

9月議会始まる。年金の2.5%削減中止を求める請願等を審議 一般質問 9月9日午前10時から

9月定例議会は9月2日から18日まで開かれています。一般質問は9月9日午前10時から行われ、私は公契約の適正化について、ひまわり学園について、大垣市民病院の院外処方について3点について質問します。順番は8番目で午後1時半頃からとなります。皆さんの議会傍聴をお願いします。大垣市議会議員 笹田トヨ子

大垣市発注の公共工事の 適正な労務単価を!

自治体が発注する公共工事や業務委託そして非正規雇用など公契約の仕事は市民の暮らしと地域経済に重要な役割を果たしています。この公契約事業で働く労働者の低賃金や不安定雇用で、官製ワーキング・プアが生み出され、その結果、公務公共サービスの低下や安全性、安定性の低下につながり問題になっています。

「公共サービス基本法」の第11条では、自治体に対し受注先企業の労働者の労働条件について必要な施策を講ずるべきという発注者責任を記しています。

大垣市で働く非正規職員や市が発注する委託事業や公共工事において、労働者の賃金が低く官製ワーキング・プアが生み出されているようなことがあれば問題です。本市の公契約事業で働く労働者の賃金など労働実態について質問します。

まず、1点は大垣市における公契約事業は金額にしておおよそどれだけか、またそこに働く労働者は何人程度か。

2点目は、大垣市の非正規職員の時給は750円で岐阜県下で2番目に低い賃金です。岐阜県は時給1000円です。今年、法定最低賃金が713円から724円に

引き上がります。大垣市の非正規職員の賃金も引き上げてはいかがか。

3点目は、大垣市が発注する公共工事の設計労務単価はどれだけか。また今議会では労務単価の引き上げにより、請負契約の変更の議案が出ているが、どれだけ引き上げられるのか。それによって受注業者の労働者の賃金や1次下請け、2次下請けといった下請け業者の労働者の賃金がどれだけ上がるのか、把握しておられるか。

等の質問を予定しています。働く皆さんの実態をお知らせください。

ひまわり学園・障害児施設と 療育の充実を!

ひまわり学園は大垣市の障害乳幼児の早期療育にとって中核的な役割を期待されていますが、児童発達支援センターにはなっていません。老朽化で改築の方向が出されている今、ひまわり学園の将来像を見据えて、施設や療育の充実が求められています。

1点目は、ひまわり学園の置かれている現状について市当局がどのような認識を持っておられるのか質問します。

2点目は、昨年の9月議会で、ひまわり学園の「児童発達支援センターへの移行」について、「ひまわり学園のあり方についての検討委員会の設置」を提案したのですが、その時の答弁は「研究する」でした。その後、どう研究されたのかお聞きします。

3点目は、指定期間10年で福祉事業団に再指定する方向が出されています。ひまわり学園の将来像やそのあり方とそれに伴う内容充実については、市当局が責任をもって、遂行されることを求めます。

患者負担を伴う「院外処方」 への切り替えの狙いは

大垣市民病院は中期計画の中で、「院外処方への切替え」を出しており、平成29年度までに院外処方箋発行率を95%までにするという目標値を掲げています。

1点目は、「院外処方への切替え」は患者さんの負担が伴うわけですが、それでもその方向に進めていく最も狙いとするところはなにか、また、院外処方に切り替えることにより、患者負担はどれだけになるか?

2点目は、院内処方から院外処方への切り替えは消費税の増税が契機とも言われていますが、仮に消費税が増税された場合、病院経営の視点からみて、院内処方の場合と院外処方ではどれだけの影響の違いがあるのか?

3点目は、院外処方への切り替えの目的に「調剤薬局による充実した服薬指導」とあるが、患者さんにとってメリットになるような実効あるものにしていくために、まず現状をどのようにとらえ、どのようなことが必要と考えられるか。